



今月の話題

- 12ヶ国21名の研修生がIISEEの新コースに参加
- 江戸東京博物館・本所防災館見学
- アジア・大洋州地球科学学会 2016年総会出席
- アジア地震学会議で同窓会を開催します
- UNESCOから本の紹介
- 新しい研修生の紹介
- IISEE 通年コースに応募するための英語力証明書について

研修 データベース

IISEENET(地震防災技術情報ネット)
IISEE-UNESCO レクチャーノート
Eラーニング
シノプシス・データベース(修士論文概要)
Bulletin データベース

12ヶ国21名の研修生がIISEEの新コースに参加

国際地震工学センター 管理室長 山下 崇

国際地震工学研修の開会式が10月4日(火)16:00-16:30にJICA筑波国際センターにて開催されました。7名の地震学コース研修生、9名の地震工学コース研修生、そして、5名の津波防災コース研修生が式典に参加しました。彼らの多くが日本に来たのは初めてですが、別のコースをすでに修了し2回目の来日の研修生もいます。



建築研究所坂本理事長

式典は、芳賀克彦JICA筑波国際センター所長の開会の挨拶から始まりました。続いて坂本雄三建築研究所理事長が歓迎の挨拶を述べました。理事長は、挨拶の中で、建築研究所は50年以上に亘り研修事業を行っていること、地震や津波に被災した人々に対し心から同情していること、そして、研修生が自然災害だけではなく、被災地の人々がどう暮

らしているかも知って欲しいと語りました。その後、政策研究大学院大学(GRIPS)の春原浩樹教授に歓迎挨拶を頂きました。続いて研修生がそれぞれ自己紹介を行い、最後に研修生を代表してエクアドルのレオナルド アルベルト アルヴァーラード ガルシア氏が挨拶を述べて式典が終了しました。

関係各国政府とJICA事務所の協力により、本年の研修には、12ヶ国22名の応募がありました。最終的に、12ヶ国21名が日本にやってきました。

新しい通年コース研修生を入れて、これまでの通年コース研修生の数は81ヶ国1,163名になります。また、これら新研修生を加えますと、国際地震工学センターの研修生は、合計100ヶ国1,772名になります。



新研修生及び建築研究所・JICA つくばスタッフ

地震データベース

2011年3月11日東北地方
太平洋沖地震
地震情報
宇津カタログ(世界の地震被害)
地震カタログ(世界の大地震の震源メカニズム、余震分布等)



江戸東京博物館・本所防災館見学(10月13日)

国際地震工学センター長 横井 俊明



横井センター長と研修生

10月13日、授業の一環で東京の下町を訪れました。まず向かったのは江戸東京博物館です。東京が江戸と呼ばれていた幕府時代の17世紀から今日までの歴史を知ることができます。横網町公園にて昼食を取った後、次に訪れたのは本所防災館です。地震や、浸水した自動車、火災、暴風雨からの避難を体験しました。

また帰路では、スカイツリーの壮大な景色を間近から眺めることもできました。研修生にとっては今回が開講後初めてとなる東京訪問となりました。

つくばでの滞在が充実したものになるよう、また、この研修が彼らの技術と知識向上に役立つよう願っております。

アジア・大洋州地球科学学会 2016 年総会出席

国際地震工学センター 上席研究員 芝崎 文一郎

8月1日(月)から8月5日(金)までアジア・大洋州地球科学学会2016年総会に参加しました。本会議では、「断層レオロジーと地震の力学」のセッションの代表コンビナーを務めました。このセッションでは、帰国研修員2名(Li Xiao-Fan, 2009-10 S; Zhang Lifan, 2010-11 S)も参加し、最近の研究成果を報告しました。二人とも帰国後も元気に活動していることを知って大変喜ばしかったです。私は島弧地殻の変形過程のモデル化とスロースリップイベントのモデル化に関する研究を報告しました。また、AOGS総会後の8月6日(土)~8月8日(月)は、中国地震局地質研究所が主催する研究集会と巡検に参加しました。8月7日夕方から8月8日まで、北京市北東部の山岳地帯(万里の長城、慕田峪周辺)まで移動し、現在表層に表れている下部地殻の延性せん断帯の露頭の巡検を行いました(写真)。



北京市北東部、慕田峪周辺の露頭(褶曲構造)の観察

論文募集

IISEE Bulletin は、現在地震学、地震工学、津波に関する論文を募集しております。開発途上国に関するものを対象としていますが、それに限らず募集しています。送って頂いた未発表の論文は、編集委員会と専門家による査読を行います。投稿料は無料です。是非チャレンジして下さい。



楽しむのは今です。

アジア地震学会議で同窓会を開催します

国際地震工学センター長 横井 俊明

2016年11月25日～27日にオーストラリアのメルボルンで開かれる11回アジア地震学会議の期間中にIISEEの同窓会を行う予定です。もしアジア地震学会議に参加予定の方はぜひ iisee@kenken.go.jp までご連絡くださいますようお願いいたします。

UNESCOから本の紹介

国際地震工学センター長 横井 俊明

地震に対して安全な家に関する UNESCO の新しい本について情報が入りました。

この出版物は“Towards resilient non-engineered construction, guide for risk-informed policy making” というタイトルで、対策担当者や優れた技術者に、安全のための対策をどう発展させるかを目指すものです。

この本の情報に関しては、下記の UNESCO のホームページをご覧ください

http://www.unesco.org/new/en/unesco/events/natural-sciences-events/?tx_browser_pi1%5BshowUid%5D=40988&cHash=1018590cdb

また、本のタイトルをぜひ検索してみてください。

2016-17 新しい研修生の紹介

地震学コース (7名)				
1		エクアドル	Mr. エドゥイン ギジェルモ ヴィラクチャ クインガ	国立工科大学 地球物理研究所 地震部門 地球物理観測網アナリスト
2		エジプト	Mr. モハメド サラ ハサバラ アリ マクラド	国立天文地球物理研究所 エジプト国立データセンター 地震学研究員
3		インド	Ms. バビタ シヤラマ	地球科学省 国立地震センター 科学研究員
4		メキシコ	Mr. ジョナタン アレオラ マンザノ	国立防災センター 自然現象監視部 次長
5		メキシコ	Mr. セルジオ アルベルト ガラピズ アロンゾ	国立防災センター 地震リスク部門 主任
6		ネパール	Ms. タラ ポカレル	産業省 鉱山地質局 地球科学部門 地質学研究員
7		ネパール	Mr. デンタン ティムシナ	産業省 鉱山地質局 国立地震センター 地震学研究員

連絡先

IISEE ニュースレターは、IISEE と卒業生の架け橋を目指しています。ニュースレターへの報告や記事をお待ちしております。皆様の自国での活躍をお知らせ下さい。また、皆様の同僚やお友達もこのメーリングリストに登録するようにお願い下さい。

iiseenews@kenken.go.jp
http://iisee.kenken.go.jp

地震工学コース (9名)				
1		アルジェリア	Mr. ラウフ ベンチャリフ	国立地震工学研究センター 地震マイクロゾーニング部門 研究員
2		バングラデシュ	Mr. ムハンマド アリフジャマン	住宅ビル開発研究所 構造工学・建築部 研究技師
3		バングラデシュ	Mr. モハメド タリク イスラム	住宅公共事業省 公共事業局 設計第6課 部門エンジニア
4		バングラデシュ	Mr. エーケーエム サジェッド ラフマーン	住宅公共事業省 公共事業局 設計第5課 部門エンジニア
5		エルサルバドル	Mr. ユウキ アレハンドロ ホサカ ヴェンチュラ	フリーランス 構造工学エンジニア
6		エルサルバドル	Ms. アレハンドラ マルセラ メンブレノ マルティネス	エルサルバドル開発普及住宅財団 企画研究部 準研究員
7		エルサルバドル	Mr. ファン ティエゴ ヴァレンシア マルモル	公共事業・住宅都市開発・交通省 住宅都市開発局 都市開発許可・取引管理部 技術決議担当
8		フィリピン	Ms. メラニー プリュエル バグカリワンガン (メル)	公共事業高速道路省 設計企画局 建築課 エンジニア II
9		トルコ	Mr. アリ アルハン ユルマズ	環境・都市化省 社会基盤・都市化総局 危険構造物部門 工学エンジニア

津波防災コース (5名)				
1		エクアドル	Mr. レオナルド アルベルト アルヴァラード ガルシア	エクアドル海洋研究所 水路測量・地図製作部門 水路測量研修生
2		エジプト	Mr. アブタレブ アミン	国立天文地球物理研究所 エジプト国立地震ネットワーク研究所 地震部 研究助手
3		ニカラグア	Mr. アミルカー ジョヴァニー カブレナ ラミレス	ニカラグア国土地理院 地球物理総局 地震学研究員
4		ニカラグア	Mr. ドミンゴ ホセ ナメンディ マルティネス	ニカラグア国土地理院 地球物理総局 地震観測網エンジニア
5		ペルー	Ms. ナビルト ジル モリアノ アブルト	水路・航路局 ペルー津波警報センター 地球物理部 海洋課 津波数値モデリング専門研究員

Total 21 participants

IISEE 通年コースに応募するための英語力証明書について

国際地震工学センター長 横井 俊明

元研修生で、同僚や部下を IISEE 研修の通年コースに参加させたいと思っている方、及び、標記研修に応募したいと思っている方と連絡をとっている方に下記の情報を提供致します。

IISEE と連携関係にある GRIPS の選考方針の変化に伴い、下記の英語力資格要件を今までより厳しく適用するよう要請されています。これらの試験の、開発途上国からの応募者にとって非常に高額の試験料や、募集期間中に試験実施日が無い国が在ることを考慮し、可能な範囲内の経済的負担で他に変わりとなる手段はないかを GRIPS と交渉しているところです。しかし、今日既に重要な時期

バックナンバーは
下記をご覧ください。

<http://iisee.kenken.go.jp/nldb/>

を迎えています。

残念ながら、TOEFL や IELTS は年中何時でも受験できるものでもないようです。多くの国ではこれらの試験の実施日が終わった後に、応募者の手元に GI が届くことになるかもしれません。そのため、ISEE 研修の通年コースに参加を希望される方には、下記の web サイトで自国での試験日と実施場所を確認し、もし可能であればですが、予め受験し証明書を得ておくことを強く御勧めします。更に詳しい情報は、今後 ISEE NEWS LETTER でお知らせしていきます。

参考: JICA の GI 記載の英語資格要件の要約

+ GI 記載の英語資格要件の要約: 応募者は話す、及び書く英語について堪能であること。最低 TOEFL では 79、TOEIC では 550、IELTS では 6.0 点を保有していること。これらは、応募締め切りから遡って2年以内に取得したものであること。(TOEFL や IELTS 等の英語能力の公式証明書を添付してください)

+ 応募者が卒業した、或いは在籍する教育機関において、英語で授業を受けていたことを証明する、教育機関から発行された公式書類がある場合は、上記の試験と同等の英語力があるとみなします。

+ 米国、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、アイランドの認定された機関において卒業、卒業見込み、または学位を取得した応募者は、自動的に英語力の資格証明書の提出が免除になります。

参考 web サイト:

IELTS: <https://www.ielts.org/>

TOEFL: <https://www.ets.org/jp/toefl>